



No.362

「大野のボランティアニュース」

大野東小福社群習！／

手話の体験では、一人ずつ自分の名前を手話で教えてもらったり、簡単な挨拶、口話ゲーム、手話歌などをしました。口話ゲームでは、「校長室」と「放送室」など口の形が似ているものはなかなかわかりにくいため、ジェスチャーを使うとわかりやすくなるということで、実際に体験することで、伝達力が上がることを感じてもらいました。

「かざぐるま」の皆さんは、「手話ができないと耳の不自由な人とは話せないと思うのではなく、身振り手振りや紙に書いたりすることもできる。一番は伝えたい気持ちが大切です」と話されていました。



点字の体験では、自分の名前を点字にする学習をしました。「てのひら」の皆さんに教えてもらいながら、一生懸命に打った点字を植原さんに読んでもらいました。児童たちは「名前読んでもらえた！」と喜んでいました。

「ぶちぶちして楽しかった」「点字は普通の文字と違うけど楽しい」「点字って覚えるの大変じゃね」「まだやりたかった」などさまざまな感想が飛び交っていました。

最後に「てのひら」の皆さんには、「ボランティアは、できることをできる時に、できる人がやる。できる時がきたらやればいい」と言っておられました。

地域にはたくさんのボランティア活動がある中で今回は、「手話」と「点字」について学ぶことができました。「楽しかった！」の声に包まれ、児童の皆さんにとってとても有意義な時間となったようでした。

地域の

ボランティアさんに
インタビュー

大野2区で活動する 村本さんご夫婦に 密着しました！



○どんな活動をしていますか？

☆信明さん

「サロンだんだん」の世話人をしています。ここでは、第1土曜日は男性、第3土曜日は女性が昼食担当をしています。25人分の料理を用意するのがとても大変です。男性の世話人さんがもっと増えてほしい…。

他にも、日赤看護大学の模擬患者のボランティアもやっています。学生が看護師役、私が入院患者役をやっています。日赤看護大学とのつながりも出来て「サロンだんだん」にも来てくれました。自分がボランティアをしているところの学生さんが、ボランティアに来てくれることは嬉しいことです。

他にも、ソーシャルクラブ「プラム」のボランティア活動にも参加しています。

☆美弥子さん

「サロンだんだん」の世話人のほか、ファミリーサポートの提供会員として登録しています。孫が育てて、子どもが大好きになり、困っているお母さんたちを助けたいとも思うようになりました。ファミリーサポートでは、買い物や掃除、お話し相手、通院の付き添いなどの活動をしてきました。

また、地域の助け合いグループとして「だんだんプラス」の活動もしています。草刈りや買い物支援など有償ボランティアもやっています。

○続けることができた秘訣は何ですか？

☆信明さん

ボランティアは会社では得られないものがたくさんあります。「サロンだんだん」では、「世話人も楽しむ」ということをコンセプトにしています。やっぱり、嫌々やっていても続かないですよね。

☆美弥子さん

困っている人を見ると、ほっとけないんですよね。人に喜んでもらうことで、自分の喜びにもつながっています。

○インタビューをして感じたこと

村本さんご夫婦はいつも温かく、快く、そして笑顔で迎え入れてくださいます。

村本さんご夫婦は、1週間のほとんど習い事や趣味をしているとお聞きしました。とても忙しい合間でのボランティア活動、心から感謝します。お体に気を付けて、地域での「困りごと」と一緒に考えさせてください。

